

2017年12月25日

ドイツ農林金融公庫の「グリーンボンド」への投資について

三井生命保険株式会社（代表取締役社長 有末 真哉）は、この度、ドイツ農林金融公庫（Landwirtschaftliche Rentenbank）が発行する豪ドル建グリーンボンド（公募形式、100百万豪ドル、約87億円相当）へ投資いたしました。

今回の投資は、当社が機関投資家として社会的責任を果たす中で進めている「多様な投資案件への取り組み」の一環として実施するもので、ドイツ農林金融公庫にとって、豪ドル建では初となるグリーンボンドの枠組みで発行する債券への投資となります。

ドイツ農林金融公庫は、ドイツ国内の農業および食品業を支援するため、再生可能エネルギーや農村地域の公共設備を含む幅広い農業関連投資案件に対し、低利融資などの資金供給を行っている非営利目的の公法人です。今回、当社が投資した資金は、グリーンプログラムの目的に適合するプロジェクトへの融資案件（ドイツ国内北部海沿いの地域における風力発電のプロジェクト）に活用されます。

当社では、少子高齢化、地球環境問題など、社会の様々な課題に向けて日々行動を重ねていくことが、生命保険会社としての社会的責任であるとの認識のもと、今後も社会全体の健全な発展に少しでも貢献できるよう、より一層努めてまいります。

記

1. 本案件の概要

発行体	ドイツ農林金融公庫 Landwirtschaftliche Rentenbank
格付	S&P AAA、Moody's Aaa、Fitch AAA
投資額	100百万豪ドル、約87億円相当
発行形態	カンガルー債※、公募

※非オーストラリア発行体（外国企業等）が、オーストラリア国内で発行する豪ドル建債券

2. ドイツ農林金融公庫について



ドイツ国内唯一の農業系銀行であるドイツ農林金融公庫（Landwirtschaftliche Rentenbank）は、ドイツ国内の農業セクターおよび地方開発の促進を使命として1949年に設立されました。同行は、農業や食品業だけでなく、再生可能エネルギーや農村地域の公共設備など、様々なプロジェクトに低利融資などを通じて資金を提供しており、ドイツ政府が推し進める環境政策において多大な貢献を果たしています。

3. コメント

○ドイツ農林金融公庫 スポークスマン・オブ・ザ・マネージング・ディレクターズ

ホルスト・レインハルト氏のコメント

この度、三井生命と私たちドイツ農林金融公庫との間にできた繋がりは、ドイツ国内の再生可能エネルギープロジェクト促進の支援となりました。三井生命が投資された資金は、約79メガワットもの容量を有する、風力発電プラントを建設する資金として活用されます。この設備の完成により、年間およそ89,000トンもの二酸化炭素排出が抑制されると期待されています。

○三井生命 取締役常務執行役員 櫛部哲男のコメント

ドイツ国内唯一の農業系銀行として、高い信用力をもつドイツ農林金融公庫が発行したグリーンボンドへの投資により、同国内における再生可能エネルギーの更なる利用促進に貢献できることは、生命保険会社にとっても大変意義深いものであると考えています。

三井生命は、『こわさないでください。自然。愛。いのち。』をテーマにCSR活動を推進しており、今後も資産運用を通じて豊かな社会の実現に貢献するとともに、収益性の観点からも有益な投資に努めてまいります。

4. グリーンボンド・プロジェクトについて

今回、当社が投資した資金は、ドイツ北部に位置するニーダーザクセン州およびシュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州で開発されている風力発電プロジェクトに活用されます。合計約126百万ユーロが投資され、ニーダーザクセン州で5か所、シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州で2か所の風力発電設備が設置されます。

ドイツは、長期的に気候変動を抑制し、持続可能な社会を実現することに注力しており、「Renewable Energy Sources Act (EEG)」※に基づき2050年までに再生可能エネルギーの割合を80%以上増加させることを目指しています。ドイツ農林金融公庫は、ミッションの一部として再生可能エネルギープロジェクトの促進に取り組むことで、この高い目標達成に貢献しています。

※再生可能エネルギー発電の促進を図るために制定されたドイツ国内法

以上